The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	国際シンポジウム報告 : インターネット・ワークショップ99(IWS'99) 開催報告
Author(s)	尾家, 祐二
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1999, 113, p. 5-6
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66348
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

国際シンポジウム報告

インターネット・ワークショップ99（IWS'99）開催報告

九州工業大学情報工学部電子情報工学科 教授
IWS'99 プログラム委員長
尾 家 祐 二

大阪大学コンベンションセンターにおきまして、Internet WorkShop 99 (IWS'99)が 2 月 18 日から 21 日の期間開催されました。本シンポジウムは、IEEE Communication Society の技術的支援および大阪大学大型計算機センター、日本学術振興会未来開拓学術研究事業「高度マルチメディア応用システム構築のための先進的ネットワークアーキテクチャの研究」(JSPS-RFTF97R16301)、科学技術庁の協力により、日本国内外におけるインターネットに関連する最新の研究開発成果の交流の為に行われました。大阪大学の宮原秀夫教授およびペンシルバニア大学のロック・ゲリン教授が委員長を務められ、宮原秀夫教授を始めとする多くの大阪大学の先生方および学生ボランティアの方々が多大の貢献をして下さいました。実際、プログラム委員長として村田正幸教授。ローカルアレンジ委員長として下條真司教授および馬場健一助教授、さらには会計委員長として大崎博之助手が活躍されました。これは、大阪大学がインターネット研究の中心的な研究機関であることを反映しており、その貢献に敬意を表します。

参加者は 244 名に達し、海外からも 52 名の研究者が参加しました。このように多くのインターネット研究者が参加し、基調講演を含む 26 のテクニカルセッションが開かれました。テクニカルセッションは、インターネットに関連する幅広いトピックを網羅しており、最新の研究成果の発表やパネルディスカッションがありました。それらの中で、多くの興味を引いている話題のひとつは、次世代インターネット構築技術に関する研究及びそのネットワーク上で動作するアプリケーションに関する研究発表でした。これまでのインターネットの拡大は、より多くのネットワークを相互接続することに関心が払われることによって実現されてきました。その中で、伝送容量の増大も行われてきました。一方、次世代インターネットを特徴付けているのは、これまでと同様の伝送容量のさらなる大容量化の他に、高い通信サービス品質および高い安全性への意識です。本シンポジウムにおいても、インターネットにおけるサービス品質(QoS)およびセキュリティに関するセッションに多くの聴衆が集まっていました。さらに、このような特徴を備えた次世代インターネットにおける新たなアプリケーションとして遠隔講義、遠隔会議および遠隔医療に関する研究発表も行われました。これら高い水準の研究成果の発表が行われ、それらの論文を収録したプロシーディングスは IEEE から出版予定です。

このように本シンポジウムの主題ともなる次世代インターネットに関する 2 つの基調

講演が行われました。ひとつはIETF(Internet Engineering Task Force)のインターネット技術ボード議長でもあるIBMのブライアン・カーペンター博士によるもので、インターネットに導入されつつある品質保証技術"Differentiated Service"の最新動向に関するもので、もう一つはインディアナ大学の副学長であるマイク・マクロビー教授による講演で、米国を中心とした次世代インターネット研究プロジェクトであるInternet2(http://www.ucaid.org/)およびその実験ネットワークであるAbilene(http://www.internet2.edu/abilene/)の紹介をして頂きました。

さらに、期間中2月18日には、宮原秀夫教授を含む日米の代表的なインターネット研究者が一堂に会し、次世代インターネット技術とアプリケーション開発に関する共同研究を行うための覚え書き締結のニュースが発表され、話題となりました。米国側は上記のInternet2の母体組織であるUCAID(University Corporation for Advanced Internet Development)が参加しました。本発表に関しては、新聞、雑誌(日経コミュニケーション1999 コミュニケーション年3月1日号92ページ「次世代インターネット、いよいよ日米共同研究がスタート」)による報道もありました。

また、上述したテクニカルセッション及びパネルディスカッションの他に、インターネット研究開発の最前線を披露するためのデモも会場にて行われました。具体的には、本学キャンパスネットワークODINSを韓国まで延長し、DV(ディジタルビデオ)による高品質遠隔会議をはじめ、本学超高圧電子顕微鏡の遠隔操作などの高速ネットワークを用いたデモが行われ、参加者に好評を博していました。